

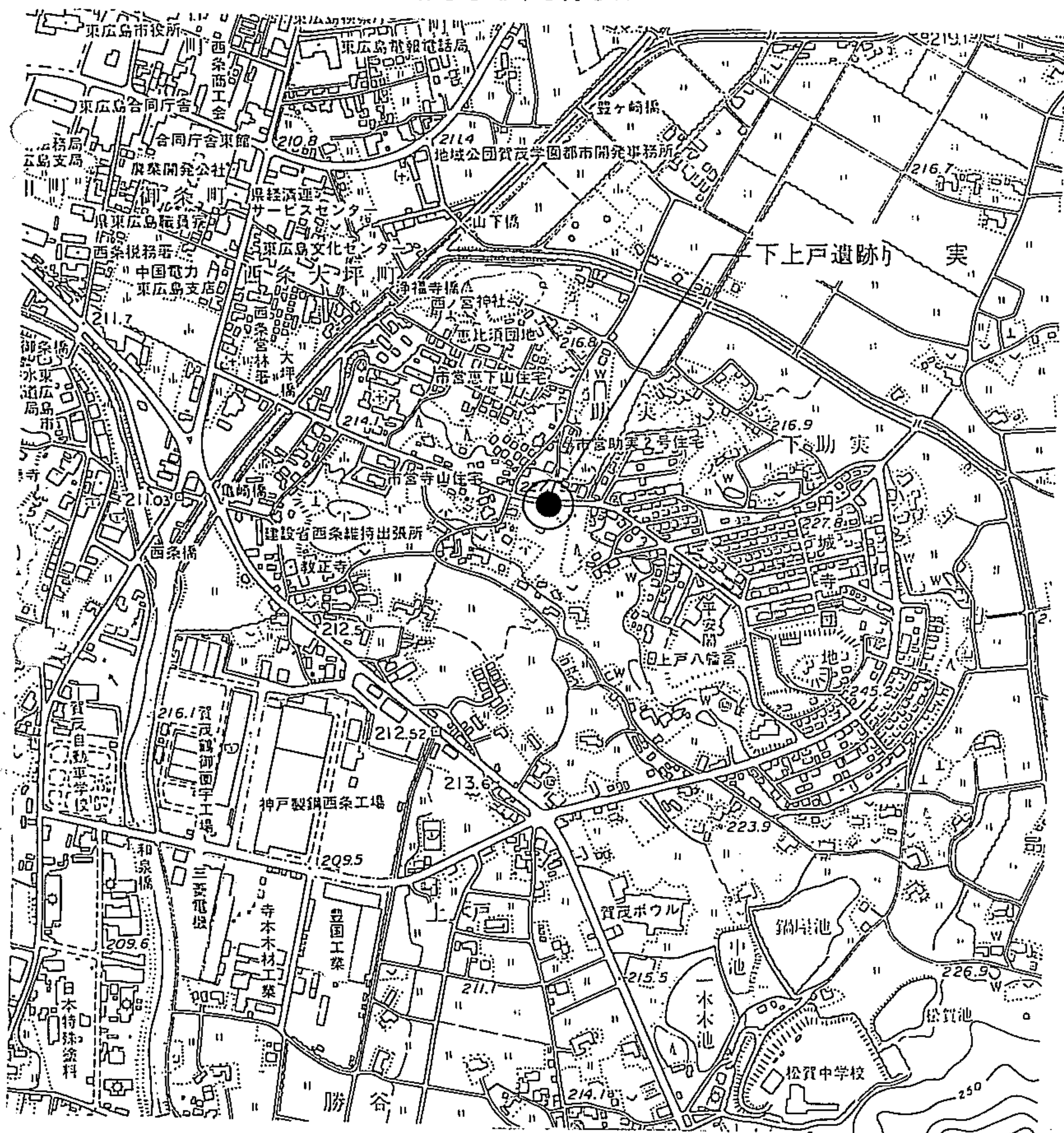
掘ったけえ見てみんさい下上戸



東広島市西条町大字御園字・助実所在 下上戸遺跡現地説明会資料

主催 財団法人東広島市教育文化振興事業団文化財センター
共催 東 広 島 市 教 育 委 員 会

1994年3月5日



はじめに

下上戸遺跡は、西条町大字御藺字と西条町大字助実が境を接する低丘陵の鞍部から南側山麓の水田地帯にかけて広がる遺跡です。遺跡の中心は、なだらかな丘の尾根に南北からはいりこんだ浅い谷の東向きの斜面にあります。周辺には、安芸国分寺の瓦を焼いた窯跡や、ミニチュア土器を多数出土した浄福寺遺跡などがあり、多くの遺跡が集まった地域です。

この遺跡は、以前から布目瓦や弥生土器などの破片が採取され、その存在が明らかになっていました。

このたび、国道375号線バイパスがこの場所を通ることになり、当センターでは平成5年4月から平成6年3月までの予定で発掘調査を実施しました。調査面積は7,500m²で、調査の結果、弥生時代から近代までの集落が確認され、古くからひとびとが暮らしていたことが明らかになりました。また、当センターの調査地点の南側を(財)広島県埋蔵文化財調査センターが調査しました。

調査の概要

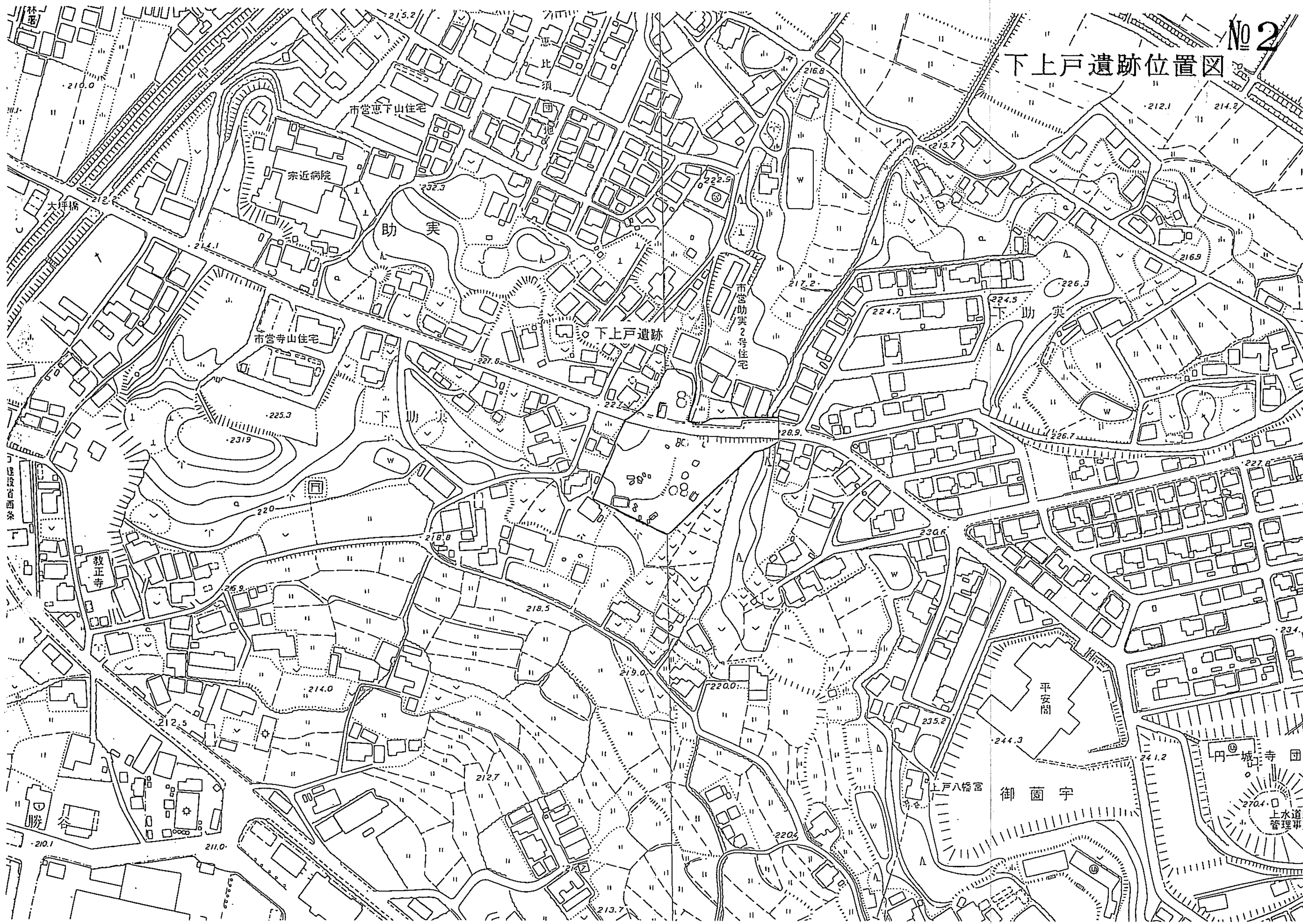
当センターでは、調査区域を3つの調査区に分けて調査を行いました。調査区は北から1区、2区、3区とし、市道の迂回路の関係から始めに2区の調査を行いました。

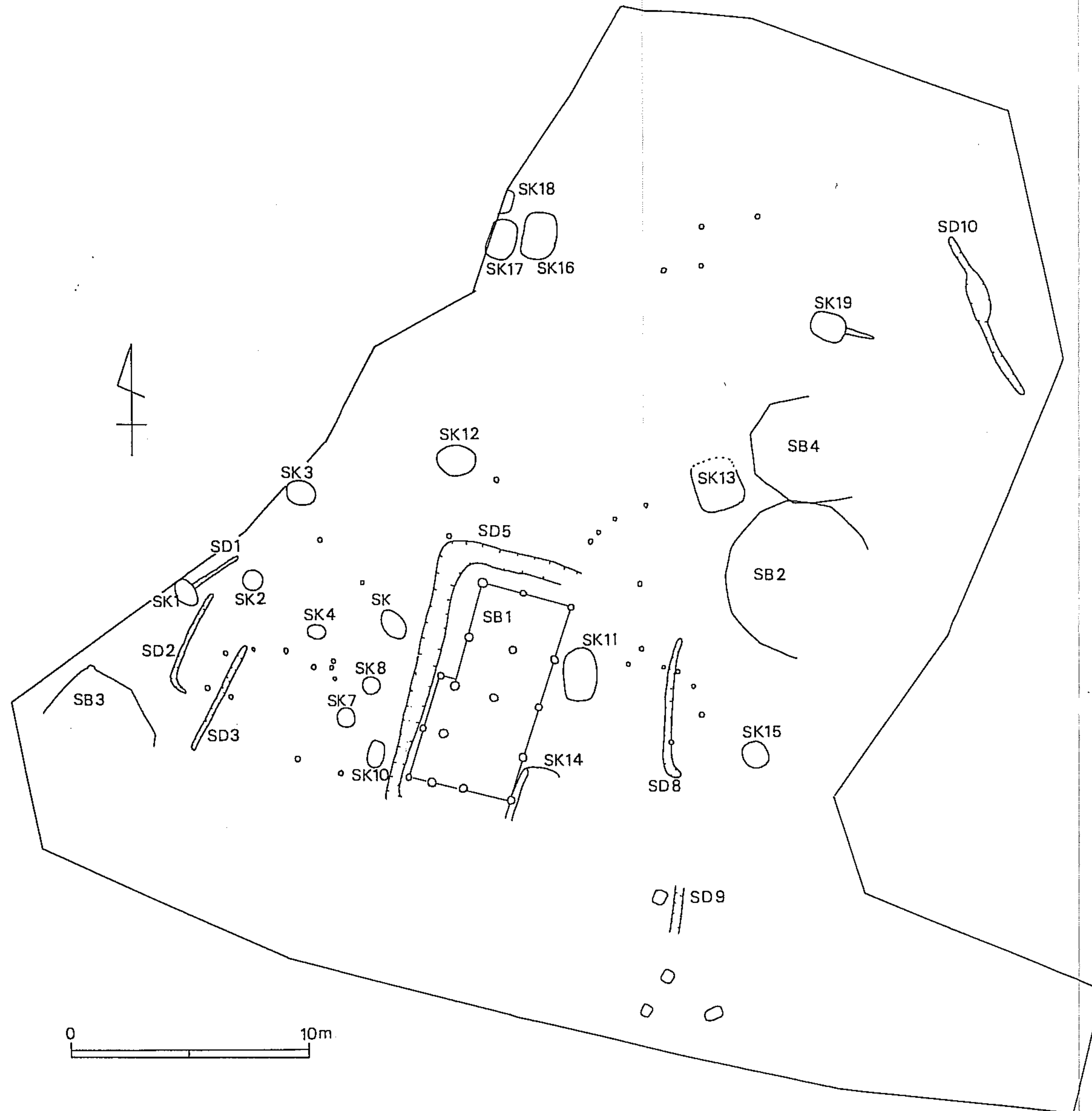
2区では、竪穴住居跡3棟、掘立柱建物跡6棟、礎石建物跡1棟のほか、溝や穴が数多く発見されました。竪穴住居跡からは、弥生時代の土器や石器、調査区東側の谷付近からは古代・中世の土器が、溝などからは近世・近代の土器、陶磁器などがありました。

1区は、道路から北側の地区で竪穴住居跡3棟、掘立柱建物跡1棟、溝10条、性格のわからない穴15基が見つかりました。出土品には、弥生時代の土器や中世の土器・陶器がありました。

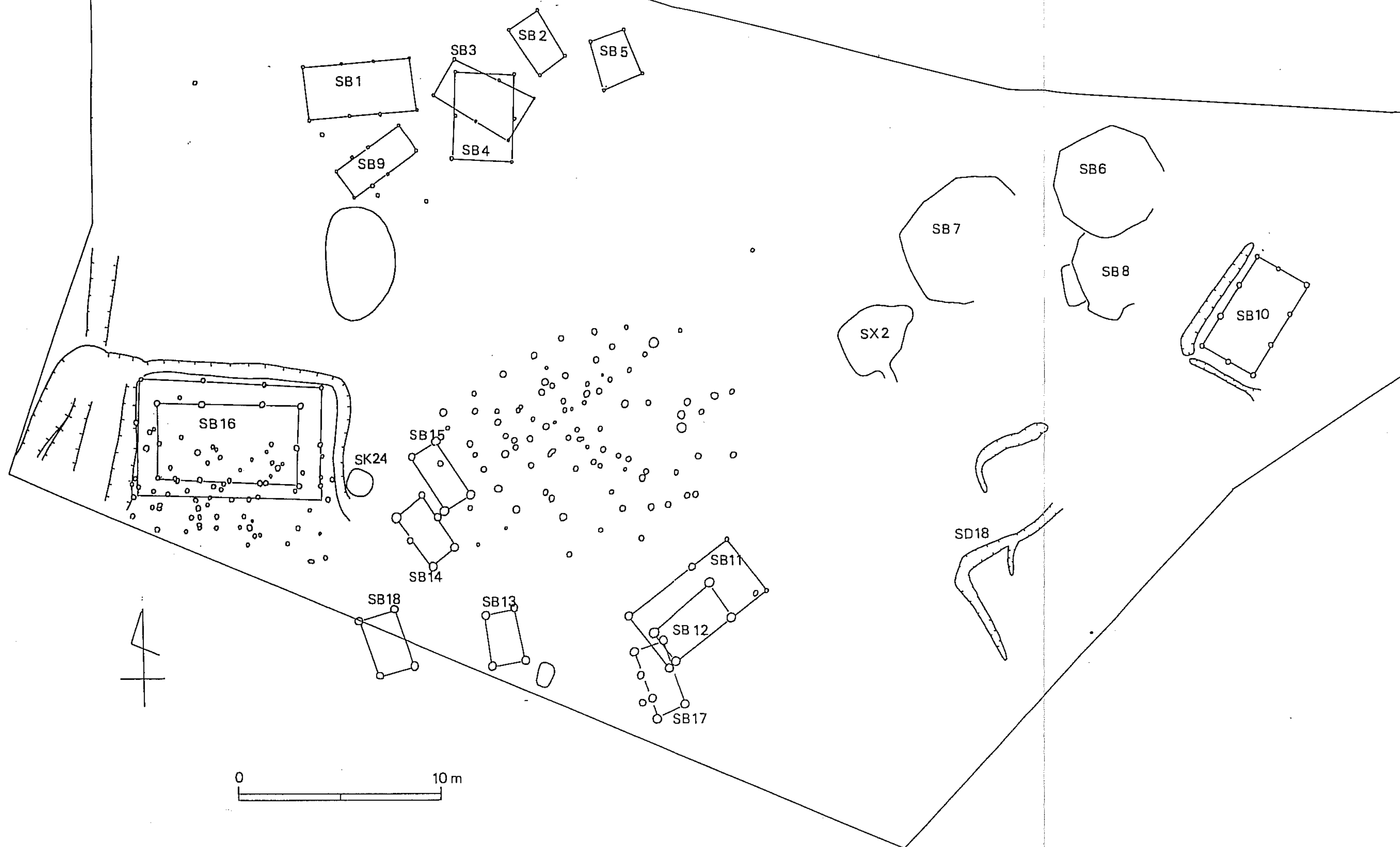
3区では、竪穴住居跡3棟、掘立柱建物跡15棟のほか、多数の溝や穴が見つかりました。出土品には、弥生時代の土器や中世の土器・陶器・磁器がありました。

下上戸遺跡位置図





3 区遺構配置図



1区SB1

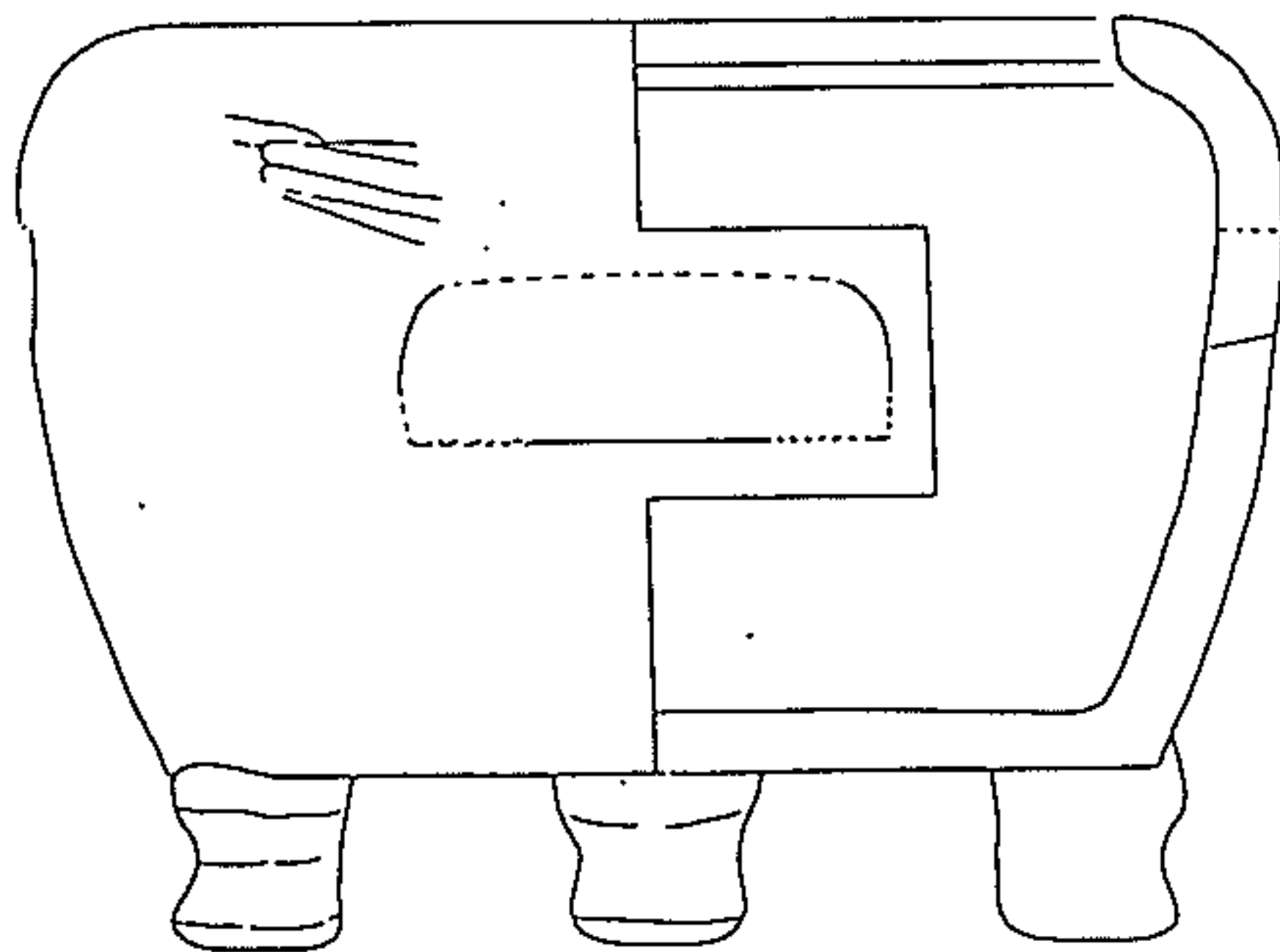
東向きのゆるやかな斜面を造成して平坦面を作り出し、L字形の溝で区画された掘立柱建物跡です。溝の様子から少なくとも1回の建て替えがあり、建物を拡張したことがわかります。拡張後の大きさは2間×4間(この間長さの単位ではなく、柱と柱の間の数を指します)で横4m、縦9mあり、畳で言うと20畳敷き程度の大きさです。柱を立てた穴は、直径40～50cmで、深いものは90cm程もあります。

出土品には、風炉(茶の湯でお湯を沸かすための道具)、天目茶碗、土鍋、布目瓦、弥生土器などがありました。

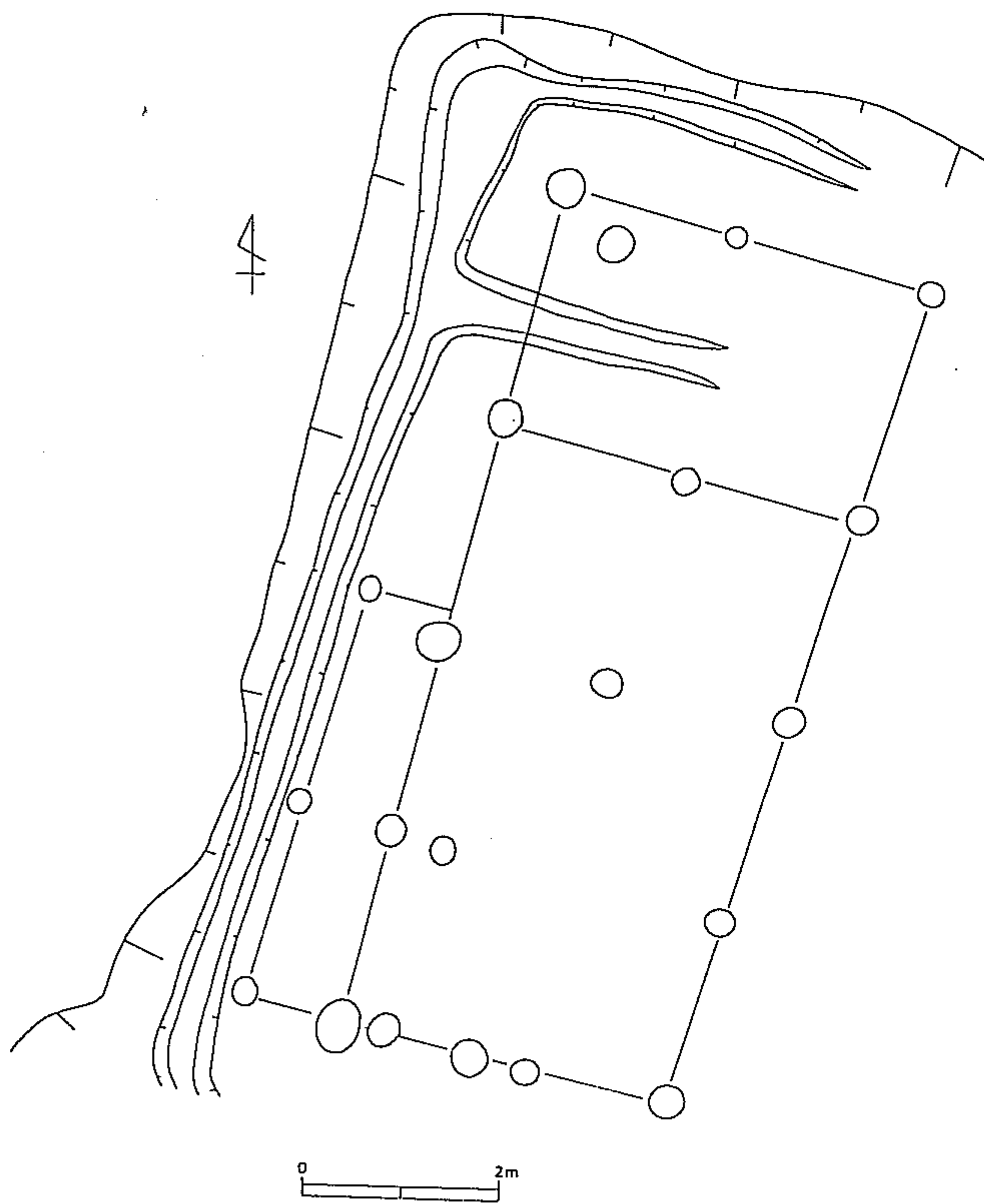
出土品からこの建物が建っていたのは、16世紀後半の戦国時代の終わりから安土桃山時代にかけてと考えられます。

建物の性格ははっきりしませんが、当時貴重だった茶道具が出土していることから、ある程度裕福な人が住んだ民家と考えられます。

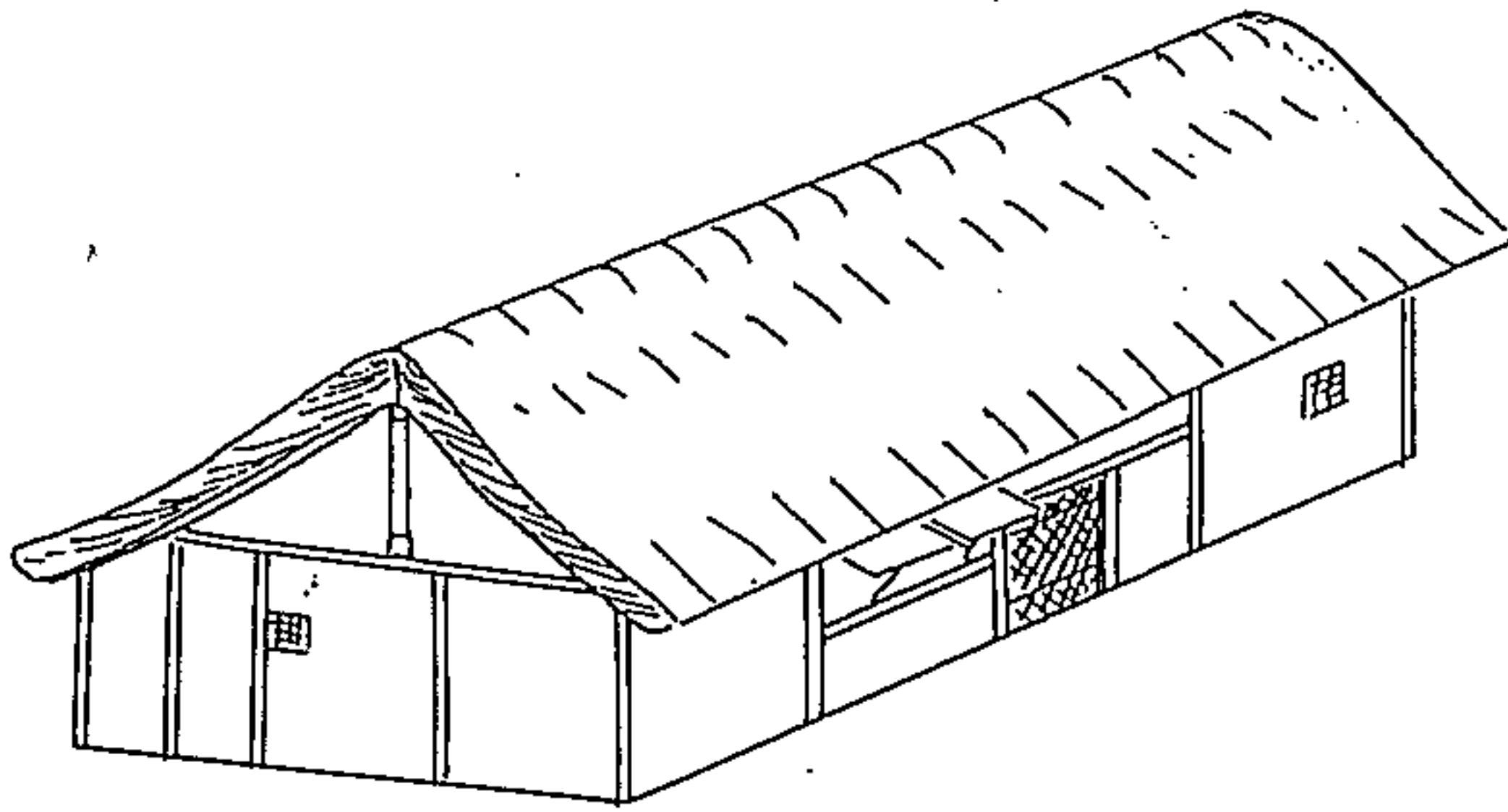
復元図は拡張後のものです。構造は、屋根が切り妻で土壁だったと考えられます。風炉が出土していることから床がはってあったことがわかりますが、建物の規模から言って板床ではなく竹簀の子で床をはっていたと考えられます。



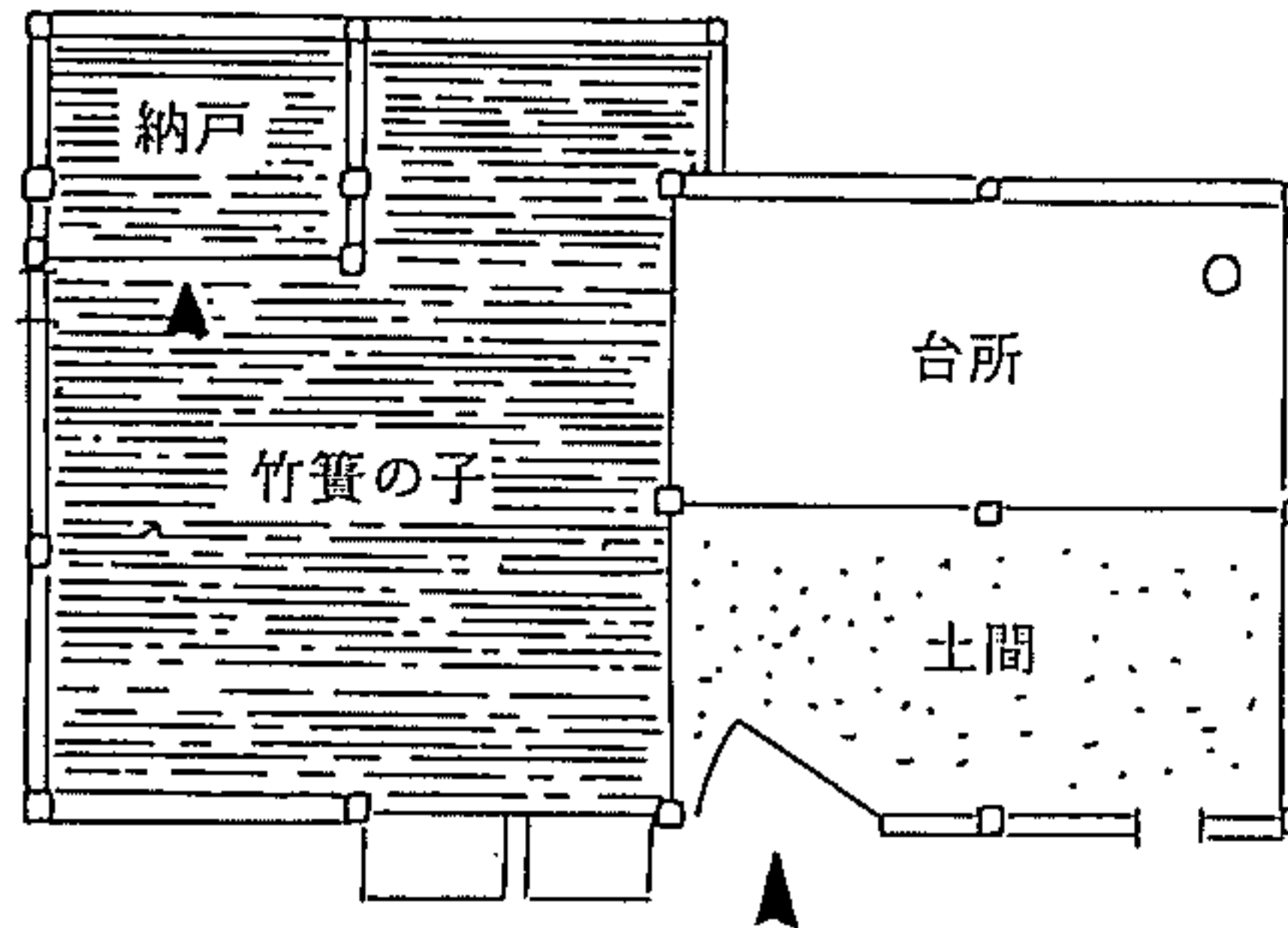
風 炉



1区 SB1 遺構平面図



1区 SB1 想像復元図



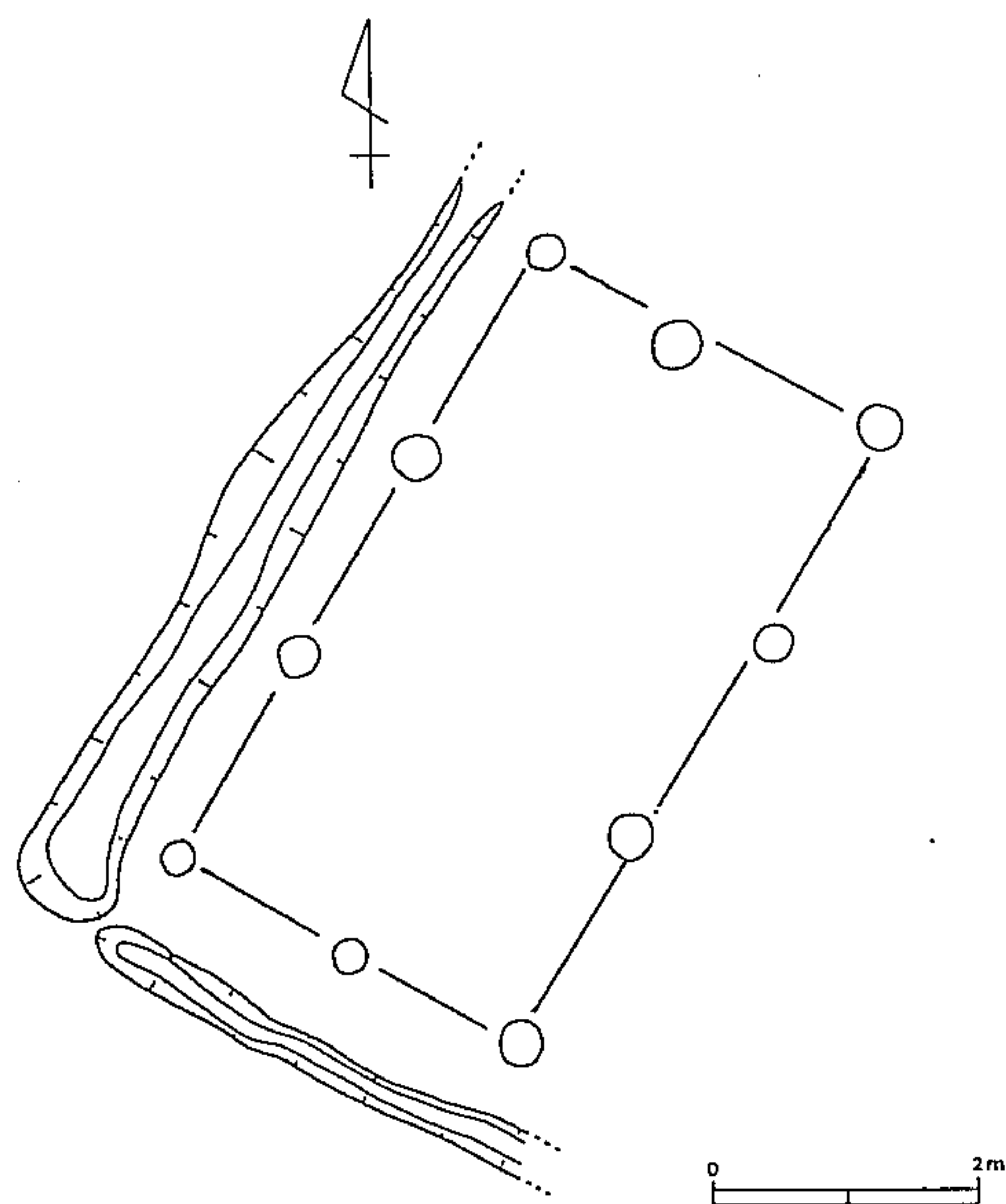
1区 SB1 平面想像復元図

3区SB10

弥生時代の掘立柱建物跡です。2間×3間とかなり大きく、柱穴も割合しっかりしています。長さは、短いほうが約3m、長いほうが約5.2mあります。

建物跡は、南と西を溝で区画されており、排水に気を配ったことがうかがわれます。

溝から出土した土器から弥生時代中期後半の早い時期のものと思われます。



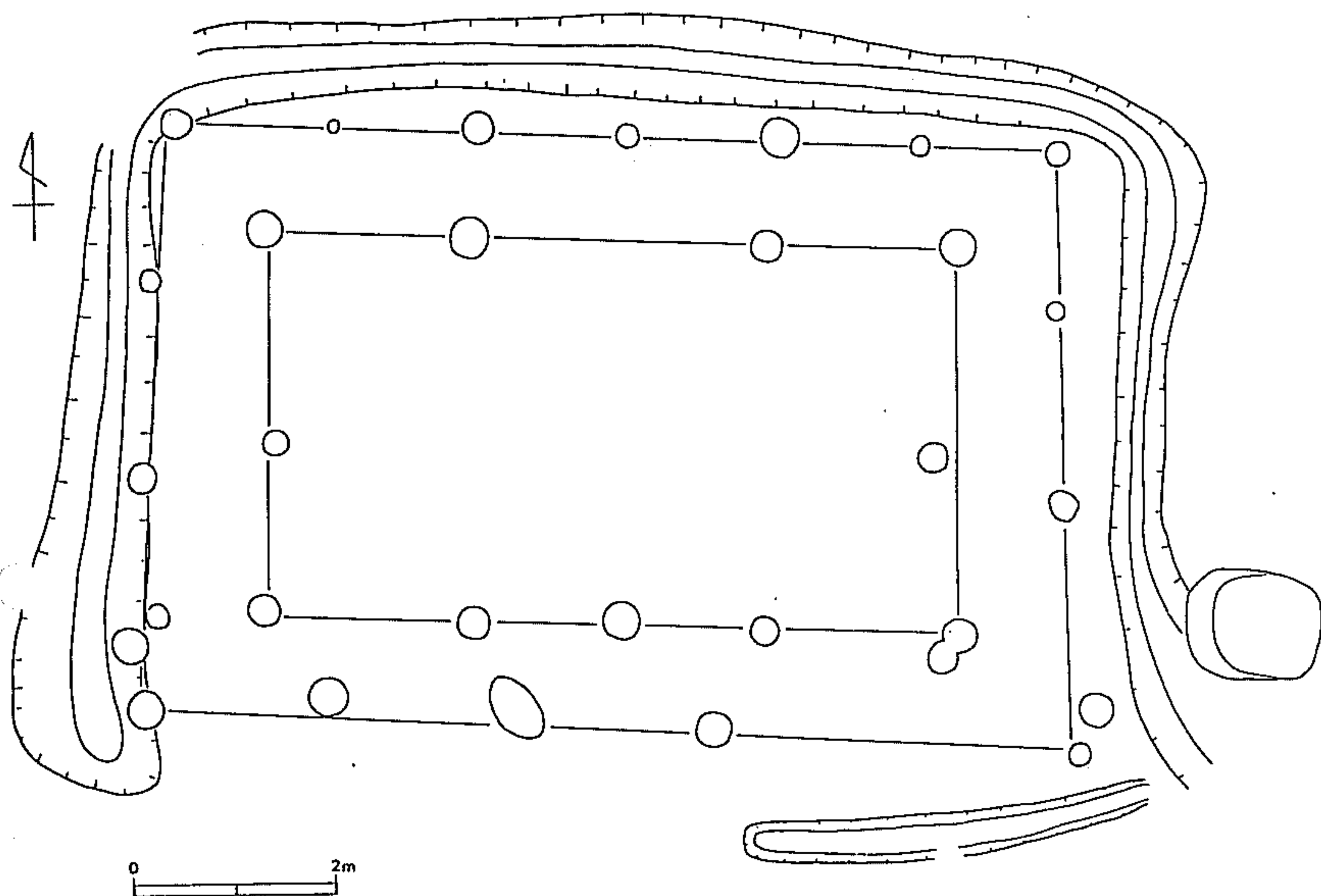
3区 SB10遺構平面図

3区SB16

幅0.6～1mの溝に3方を囲まれた4間×6間の掘立柱建物跡です。面積は、15坪(30畳)で、掘立柱建物としてはかなり大きな建物だったと考えられます。四面に底が付くことから土間は無く、すべて床が張ってあったと考えられます。ただ床はやはり板張りでは無く簀の子床だったと考えられます。

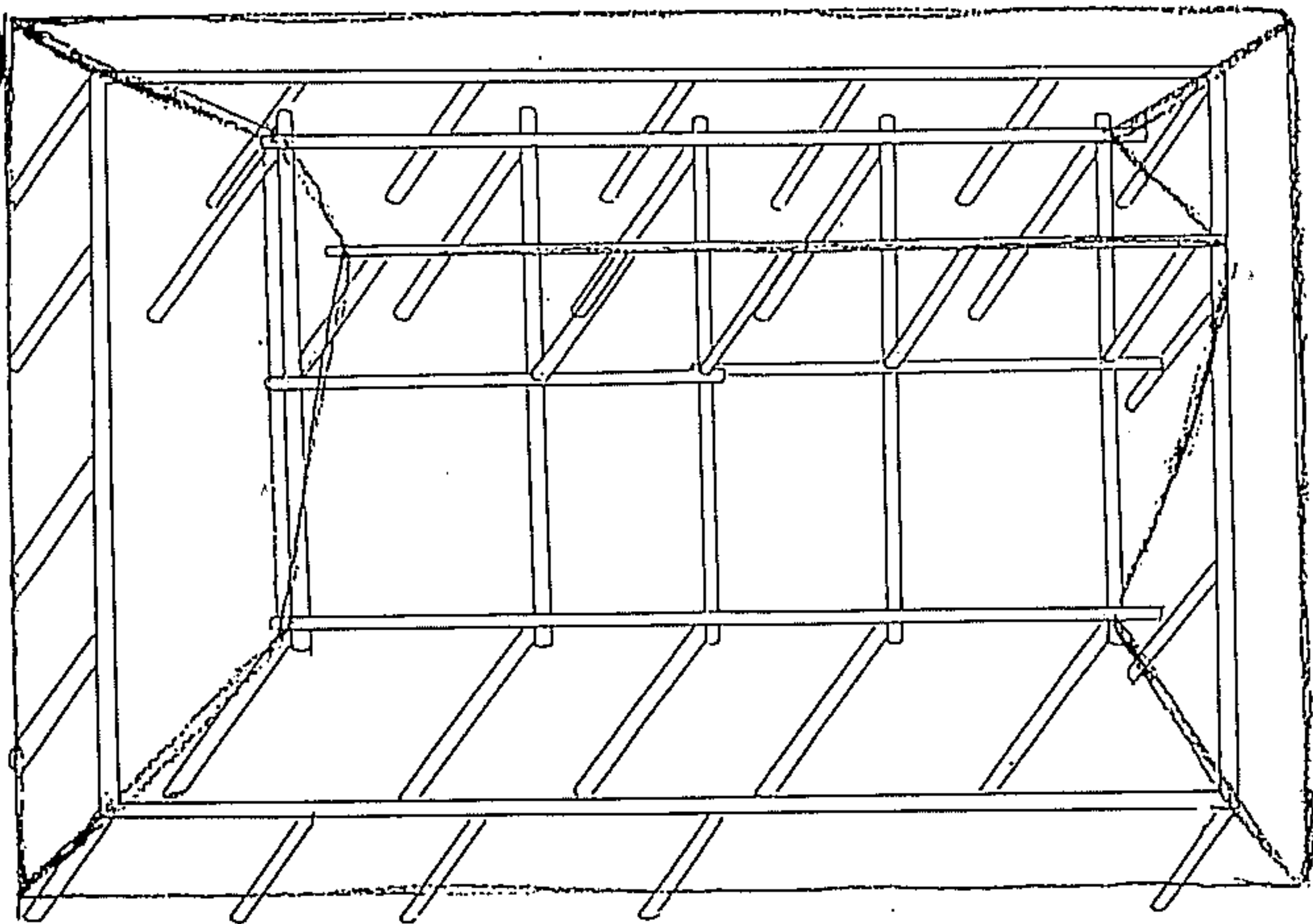
周囲の溝には焼け土が大量に埋まっており、火災にあった可能性もあります。

出土品には、土鍋やすり鉢の破片があり、時代は16世紀前半の戦国時代と考えられます。建物の性格ははっきりしませんが、建物の規模から名主・地侍クラスの住宅だったと考えられます。

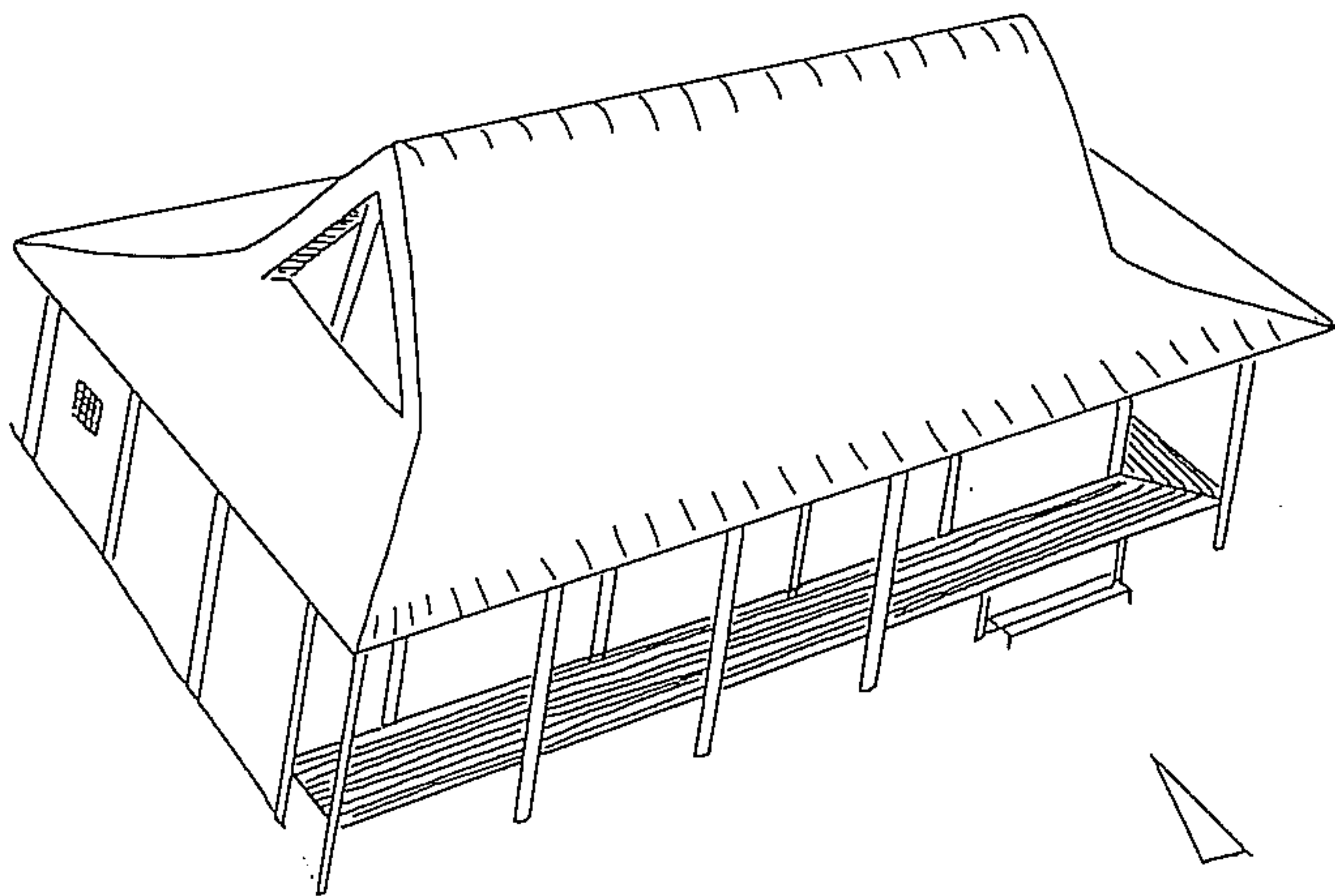


3区 SB16遺構平面図

No 10



3区 SB16 推定構造図



3区 SB16 想像復元図

例 言

1. この資料で使用了た建造物の復元図原図の作成は、広島大学工学部助教授三浦正幸氏にお願いしました。
2. この資料で使用了た風炉の実測図は、愛媛県埋蔵文化財センター発行の道後公園埋蔵文化財発掘調査現地説明会資料平成5年6月27日所載の図を使用了た。

